

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ～ 今こそ“地域の底力”で立ち上がろう ～

この度の東北地方太平洋沖地震において被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。また、亡くなられた児童・生徒、先生方を思うと、とても心が痛みます。お悔み申し上げます。

3月17日付の岩手日報「風土記」では、「危機でも協力する共同体意識は日本社会の底力だ」と被災地の住民らが譲り合いの精神を忘れずに対応していることを韓国の中央日報が報じたと紹介されていました。

連日、被災地の皆さんが力を合わせ頑張っている様子が報道されておりますが、とりわけ中学生や高校生が「自分にできることをやりたい」「皆さんを励ましたい」と頑張っている姿、卒業式での凜とした姿に心が打たれます。

私も、3月18日（金）～21日（月）の本当に短い期間ですが、沿岸地区の避難所のお手伝いに行っておりました。避難所となっている小学校には、約160名の地域の方々、子どもたちが生活をしていましたが、代表を中心に自治活動をおこなっていました。

理科室で避難者全員の食事を作るお母さんたち。水や救援物資が届けば率先して行動してくれる青年たち。「学校にこんなにお世話になって、これからいっぱい学校や子どもたちにお礼をしなくちゃね」と言ってくれるおばあちゃん。職員室の先生方に「水を持ってきました」とレジ袋いっぱい水を汲んでくれた低学年の女の子や低学年の世話をしてくれる高学年の子どもたち、みんな力いっぱい生活をしています。

日本中から、世界中から支援の手が差しのべられています。県内各地の学校の先生方も被災地に向かい、沿岸地区の先生方や子どもたちの力になっています。「岩手・結っこの会」のように、内陸と沿岸を結んでの民間による支援体制もできてきました。岩手県には、力強い“地域の底力”があります。みんなで、自分にできることに取り組んでいきましょう。

★配信日が遅くなりましたこと、また通常の内容を変更し、特別通信としておりますことをご了承願います。

メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★第42号は、4月12日（火）配信です。

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

---